

小規模事業場の 健康改善事例

第2回 産業保健を支援する
事業の在り方に関する検討会 提出資料

平成25年5月9日（木）
公益社団法人日本看護協会 常任理事 中板育美

A事業場における保健師の活動事例

個々の問題を把握したうえで、改善するための連携・調整をし、職場の環境改善、予防体制の構築にまで働きかけ、成果を出すことができる

地域産業保健センター W保健師による 判断・連携・調整

- 心身両面からの判断
- 健康診断全員受診の徹底を社長に提案
 - ・高血圧者が多数おり、労災発生リスク等について情報提供
 - ・心身ともに疲弊する労働者が増加している状況への早急な対応策を提案
- 産業医への情報提供
- 労働衛生の情報収集方法を担当者に説明
- 産業保健推進センターの環境測定等の資源や機材活用

産業保健推進センター Y保健師による 予防活動への継続した調整

- A事業場や地産保W保健師に対し、
- 仕組みが事業場に合った形で運用できるように、継続的かつ直接的に支援
 - 継続的な健康支援のために組織へ働きかけ、組織が自主的に動けるよう支援
 - 信頼できる医療機関等の紹介ができるなど、ネットワークの構築を図る

A事業場 従業員約45人
IT関連企業

成果

【労働者や事業主の変化】

- ・全員が健康診断を受診（受診率100%）
- ・心と体の相談窓口が開設され、本人・上司など相談者が増加
- ・事業場全体が禁煙化となり、自主的な禁煙者が増加

【事業場の健康管理体制構築】

- ・事業場の担当者自らが、衛生管理者の資格を取得した
- ・メンタルヘルス対策として、管理監督者研修・社員研修が年間計画に位置付けられ、運用されるようになった
- ・地域産業保健センターを活用した医師による面談ルートが確立し、活用している

事業場全体への 健康支援の仕組みづくりへ

- ・全員が健康診断を受診できるよう、組織全体で勤務時間の調整実施
- ・健診結果が本人に返され、内容の確認ができるように事業場全体で健康管理への取り組みを検討
- ・職場のメンタルヘルス対策について各部署の管理職が意見交換
- ・多忙職場を応援するために業務調整会議を開催
- ・禁煙意識について労働者全員にアンケート調査実施



事業場への
支援

仕組みが機能・
活用されるよう
継続支援

直接の事業場訪問実施



A事業場における 個々の問題の把握

- ・健康診断をはじめて受けた
- ・有所見率が80%
- ・職場上司の暴言
- ・夜眠れない・・・
- ・月100時間の時間外労働
- ・上司も部下も過重労働
- ・たばこの煙が辛い

個別の課題を
組織・集団への
取り組みへ

<健康支援体制の充実>

産業保健推進センター保健師と
地域産業保健センター保健師との協働

保健師による労働者・事業場への支援の特徴

- 個々の労働者の問題を全人的に心身両面から捉え、医学的側面から対応ができる
- 個々の労働者からの事例を集約し、組織の健康課題として、仕事・職場環境、生活との関係を総合的に判断できる
- そして、一つの集団として、健康支援の仕組みづくりのための企画立案ができる
- 健康支援に必要なネットワークの構築ができる



**一次予防から三次予防のための
効果的な活動を展開し推進できる**